

천지인문

天池人文

~我々が考え、我々が実行し、我々が支援し、我々の夢を実現する~

CHONJI CULTURE



天池倶楽部 発行

CONTENTS／目录／목차／目次

日本在住中国朝鮮族アンケート調査報告	1
우리말 시감상	5
天池広告	6
「兄ちゃん、あたしは死んでもお兄ちゃんは死なないで」	7
実践日本語作文講座	11
장백의 메아리	12
人形劇を通じた日韓文化交流	14
韓国映画案内	15
沿海州に戻ってきた中央アジアの朝鮮人集団定着村で農業を開始	16
「中国朝鮮族研究会」研究活動報告	24
2000 년 월드컵	26
1998-1999年天池倶楽部活動概要	27
留学生寮の紹介	28
天池倶楽部1999年度定期総会案内	29

中国朝鮮族研究

日本在住中国朝鮮族アンケート調査報告

1997年4月、あるきっかけから日本にいる中国朝鮮族についてのアンケート調査を行うことになった。中国に生まれ育ち、中国で社会主義・共産主義教育を受けながら、一人の「中国人」として生き、しかしながら祖先から自ずと受け継いだ風俗習慣やことばをそのまま保持し、いまは祖先の国でも自分が生まれ育った国でもない日本に来て暮らす彼らにとって祖国とは何で、民族とは何なのか。「国際化」「地球村」ということばが巷に溢れる昨今、一種独特な立場にある日本在住の中国朝鮮族は祖国、民族、言語、教育などについてどのような考えを持って暮らしているのだろうか。その一端を探る目的でアンケート調査を実施した。

アンケート調査に際し、事前に調査内容などについて緻密に検討したわけではなく、わりと身近に思われる問題点を思い浮かぶままに質問の形式で31項目選んで調査を行った。従って稚拙な質問も少なくなく、深みに欠けている嫌いもなくはない。しかし、このようなシンプルな質問であったからこそ、却って回答者に負担をかけず、気軽に回答してもらえたのかも知れない。

以下、35人から回収した回答を、18項目だけ選んで質問の順番にまとめて参考に供する。必要に応じて筆者のコメントを加えた。なお、回答者のほとんどは中国延辺朝鮮族自治州から来日している人たちである。

1. 祖国はどこだと思いますか。 ①中国 31人 ②北朝鮮 1人 ③韓国 1人
④朝鮮半島 1人 ⑤わからない 1人

辞書によれば、「祖国」とは、①先祖代々住んできた国、②自分の生まれた国（新選国語辞典・小学館）とされているが、ここでは②の意味として取っている人が大多数であるようだ。

2. 自分は何人だと思いますか。 ①中国人 24人 ②朝鮮人 10人
③その他 1人

「〇〇人」と聞かれて、筆者自身答えに窮する場合がたびたびある。国籍を基準にすれば、間違いなく「中国人」であるが、民族的な見地から見れば、「朝鮮人」という考え方も一概に間違っているとは言いきれない。すでに日本に帰化している中国人（漢族）も同じ中国人同士の前では「私は中国人だ」とは言っても、決して「私は日本人だ」とは言わない（中国大使館に行った時、日本語もろくにしゃべれない中国系日本人奥さん連中が「ワ、タ、シ、ニッ、ポンジン！」を声を張り上げるのは聞いたことはあるが）。したがって35人のうち10人が自分は「朝鮮人」と回答したのは理解に難くない。なお、「〇〇人」の「人」は「ひとを人種、国籍、職業などで分類して呼ぶときの称」（広辞苑・第四版）となっている。

3. 中国に生まれてよかったと思いますか。 ①はい 25人 ②いいえ 8人
③わからない・何ともいえない 2人

理由：はい

- 国が広いから
- 人間関係がいいから
- 中国が好きだから
- いろんな文化に接するから
- ことばができるから
- 生まれ育った地だから

いいえ：朝鮮民族だから 自由がないから 不便だから 好きなことができなかったから

4. 将来どこの国に住みたいですか。 ①中国 19人 ②アメリカ 8人
③日本 4人 ④韓国 2人 ⑤その他、わからない
- 理由：中国 発展性があるから 生まれ故郷だから のんびりできるから
ある意味では最も自由だから 中国文化に慣れているから
- アメリカ 自由な国だから
- 日本 子供の成長や将来を考えると

回答者の半数以上は中国に住みたいと答えている。中国についてアメリカが8人であるが、自由を求める心理と、アメリカを夢の国と思う傾向が見られる。韓国に住みたいと答えた人が案外少なかった。中国に在住する朝鮮族のコリアンドリーム志向とは対照的である。

5. どの国の人に最も親近感を持っていますか。(順番を記号で書いてください)。

- I、①中国の朝鮮族 ②中国人(漢族) ③韓国人 ④日本人 15人
II、①中国の朝鮮族 ②中国人(漢族) ③日本人 ④韓国人 10人
III、①中国の朝鮮族 ②韓国人 ③日本人 ④中国人(漢族) 3人

1位に朝鮮族を挙げた回答者は33人、日本人を挙げた回答者が二人いた。

6. もし生まれ変わるとすれば、なに人になりたいですか。

- 中国人13人 朝鮮人9人 アメリカ人4人 ヨーロッパ人3人
日本人2人 無回答3人

7. 自分が朝鮮民族として生まれたことに誇りを持っていますか。

- 持っている26人 持っていない5人 無回答4人

この質問では a、持っている b、持っていない c、嫌悪感さえある の3項目を挙げたが、cの回答者はいなかった。

8. 韓国人の考え方と中国朝鮮族の考え方は近いと思いますか。

- 近い7人 遠い12人 かなりかけ離れている14人 無回答・わからない2人

同じ民族であるとはいえ、生まれ育った環境や受けた教育が違うせいか、「遠い」または「かなりかけ離れている」と答えた回答者が7割以上を占めていた。

9. 韓国人が好きですか。 a、好き b、嫌い c、何ともいえない

「何ともいえない」と答えた回答者が29人で、「好き」が3人、「嫌い」が3人であった。「好き」な理由として「同じ民族だから(2)、人による(1)」、「嫌い」な理由として「自分がえらいと思っている(2)・理屈っぽい(1)」などが挙げられている。

なお、「何ともいえない」の理由には次のような理由が挙げられている。

- 交流がない
- 人によるから
- 義兄が韓国人
- 同じ民族として親近感を持っている
- 実際韓国人に受け入れられない
- 教養不足が気に入らない
- 自分が一番えらいと思っているのが気に入らない
- 受け入れられるところと受け入れられないところがある

10. 日本人が好きですか a、好き b、嫌い c、何ともいえない

9の質問と同じく、「何ともいえない」と答えた回答者が23人で最も多く、「好き」が8人、「嫌い」が4人と、「好き」は「嫌い」の倍であった。「好き」な理由としては「勤勉、集団を大事にする、奮発的な精神、親切」などが挙がっており、「嫌い」な理由としては「差別」が挙げられている。なお、「何ともいえない」の理由としては「好きな人もいれば、嫌いな人もいる、付き合いがあまりない」などが挙げられている。

11. 中国人が好きですか。 a、好き b、嫌い c、何ともいえない

「好き」が20人、「嫌い」が3人、「何ともいえない」が13人であった。9と10の質問と回答が対照的で、「好き」が半数以上であった。「好き」な理由としては「心が広い、祖国の人だから、裏表なし、親友が多い、素朴だ、お互いよく知っている(言語、習慣など)」などが挙がっており、「嫌い」な理由としては「信用できない、個人主義」が挙げられている。「何ともいえない」の理由としては「人による」以外、あまり具体的な解答がなかった。

12. 中国にいるとき、家庭以外では主に何語を使いましたか。

中国語3人 朝鮮語7人 中国語と朝鮮語を半々25人

13. 中国にいるとき、家庭内では主に何語を使いましたか。

朝鮮語26人 中国語と朝鮮語を半々9人

家庭以外と家庭内で使っていることばは対照的である。つまり、いまだに朝鮮族は漢族と結婚する人が少なく(特に延辺地区)、朝鮮族同士で結婚するので家庭内では大体朝鮮語で話し合うのが一般的である。それに対し、外では漢族との付き合いも多く、どうしても中国語を使わざるを得ない。また、朝鮮族は中国語が話せても、朝鮮語が話せる漢族は非常に少ないので、彼らとのコミュニケーションは中国でしかできない、ということも外で中国語を使用する大きな要因の一つと言えよう。

14. いま、自分は何語が一番よくできると思いますか。

朝鮮語22人 中国語8人 日本語3人 わからない2人

中国延辺地区では朝鮮族の学校に通う場合、大体高校まで朝鮮語で教育を受け(教師が朝鮮語で教えている)るので、延辺以外の大学に入ると、暫くの間は中国語による授業が理解できず、苦勞する人が少なくない。従って、延辺地区に住む大多数の朝鮮族にとって第一言語はやはり朝鮮語である。中国語が「一番よくできる」朝鮮族は特殊な環境で育っているか(漢族が多く住んでいるところに住むなど)、または幼い時から漢族の学校に通った人であろう。「日本語」と回答を出した3人はどういう状況かわからないが、もし

かしたらこれまで中国語も朝鮮語も中途半端だったので日本語が「一番よくできる」と思いこんでいるのかも知れない。アンケート調査対象は全員来日して10年未満の朝鮮族であり、日本語が「一番よくできる」ことはありえない。

15.中国でなに語で教育を受けましたか。

朝鮮語24人 中国語7人 その他4人(中国語で教育を受けたり、朝鮮語で教育を受けたりした)

16.現在、何語を使った方が一番便利ですか。

朝鮮語25人 日本語5人 中国語4人 その他1人

17.結婚の相手としてなに人が一番理想だと思いますか。

朝鮮族25人 日本人2人 中国人1人 何人でもかまわない7人

朝鮮族が理想だと思う理由:

- 同じ価値観も持っている
- 風俗習慣が同じである
- 文化が一致している
- 同じ民族である
- やさしい
- ことばが同じである

また、日本人が理想だと思う理由に「おとなしい」が挙がっている。

18.同族以外の民族と結婚したら家族や回りから反対されますか

反対される20人 反対されない4人 どっちでもいい6人

漢族だったら反対される2人 その他3人

以上に挙げた18項目のほかに、子供の教育などに関する質問があったが、回答者の大半は未婚か子供がいないので回答者が少なかったので取り上げなかった。これから再度調査する機会があったらもう少し綿密に調査したい。このアンケート調査が毎年増えつつある日本に居住する中国朝鮮族に対する研究のきっかけになれば幸いである。

李 東哲(吉林)

月刊誌「天池人文」編集補助募集

日本在住中国朝鮮族の組織「天池倶楽部」が発行する月刊誌「天池人文」をよりよい紙面にするために、編集補助人員を若干名募集します。日本在住の中国朝鮮族で雑誌作りに興味があり、1カ月に2回くらい雑誌編集を手伝う余裕のある方は応募していただきたいと存じます。ボランティアで報酬はありませんが、私たち自身のためにも奮って応募してください。編集経験のある方は大歓迎です。

「天池人文」編集部

우리말 시감상 (朝鮮語詩鑑賞) (2)

조선은 술을 먹인다

심 훈

조선은 마음 약한 젊은 사람에게 술을 먹인다.
입을 어기고 독한 술잔으로 들어본는다.
그네들의 마음은 화장터의 새벽과 같이 쓸쓸하고
그네들의 생활은 해수욕장의 가을처럼 공허하여
그 마음 그 생활에서 순간이라도 떠나고자 술을 마신다.
아편 대신으로 죽음 대신으로 알콜을 삼킨다.

가는 곳마다 양조장이요 골목마다 색주가다
카페의 의자를 부수고 술잔을 깨뜨리는 사나이가
피를 아끼지 않는 조선의 테러리스트요,
파출소 문앞에 오줌을 깔기는 주정꾼이
이 땅의 가장 용감한 반역아란 말이나?
그렇다면 전한목을 불안고 통곡하는 친구는
이 바닥의 비분을 독차지한 지사로구나.

아아 조선은, 마음 약한 젊은 사람에게 술을 먹인다.
뜻이 굳지 못한 청년들의 골을 녹이려 한다.
생재목에 알콜을 끼얹어 태워 버리려 한다.

(大村益夫編訳「対訳 詩で学ぶ朝鮮の心」より)

沈勲(1901~1936)

本名は沈大섭、ソウル出身。京城第一高等普通学校在学中に三・一運動が起こり、これに参加して逮捕。翌年中国杭州で大学に通うも中退。帰国後、『東亜日報』の記者を勤める。映画に出演したり、映画監督をしたり、新劇研究団体を組織したり、放送局で文芸担当記者をしたり、多彩な才能の持主であった。

代表作「その日がくれば」は一九三〇年三月作。民族の解放と祖国の独立を未来に描いた抵抗詞の一典型である。「朝鮮は酒を飲ませる」は一九二九年の作、時代の窒息状況をうたっている。

天池広告

国際民宿 職業案内所

- ★ 海外で苦勞されている朝鮮族のための特別サービス
1泊1,000円、自炊可能
- ★ 民泊・下宿を探される方、どんな要望にも OK
安い部屋、高級部屋あり、団体客歓迎
- ★ 保証人・保証金不用、1ヶ月三万円で入居可能
- ★ 男女の各種職業紹介（どんな職業でも紹介あり）
- ★ 場所：JR 山の手線「鶯谷駅」徒歩2分

TEL. 03-3872-9960

H/P. 090-3520-1232

*『天池人文』編集部は在日朝鮮族事業家朴永憲社長が経営する国際民宿を朝鮮族の皆様が積極的に利用することをお勧めします。いきなり中国から知り合いが訪ねてきたとか、新しく来日する人のために宿泊探しに困る方々は気軽に国際民宿をご利用ください。1泊1,000円の安い料金、親切なサービスが魅力です。国際民宿は中国朝鮮族が多く利用することで、一名『朝鮮族会館』とも呼ばれています。

ハンアルムビデオ

- ★ 韓国食品卸・販売
- ★ ビデオ（迅速に配達）
- ★ 海外送金

TEL. 03-5811-7881

03-5850-7831

手を取り合っあごまで届く豆満江を渡ってきた

イム・ Chol (10)、イム・ソヨン(8) 兄妹の眼に写った北朝鮮子供たちの生と死

「兄ちゃん、あたしは死んでもお兄ちゃんは死なないで」

【編集者注】今年四月、しっかりと手を取り合っあごまで届く豆満江を渡って中国延辺地区に脱出したイム・ Chol (10) とイム・ソヨン (8) 兄妹の話を肉声録音テープとともに紹介する。この記事はイム兄妹を保護している朝鮮族のパク・ホン氏が兄妹の証言をもとに手記風に整理したものである。記事のあとには兄妹の肉声証言テープを回して、生の声をそのまま書きとめた。手記と録音テープの間に、副次的な内容に若干行き違いがあったが、そのまま掲載した。録音テープに出る質問者はパク・ホン氏である。

○ まえがき ○

北朝鮮では食糧難に起因する飢餓により、数多くの餓死者を続出させた。ここに登場する兄妹の父親は北朝鮮で大学を卒業後、採炭技師として務め、母親は咸鏡北道芸術団で公演プログラム紹介者兼舞踊手をしていたが、後に炭坑に嫁いできたという。

両親が飢餓に倒れると兄妹は「コゼビ」（コッゼビ）として方々流浪したすえ、ひそかに中国に渡ってきた。

異国の地を放浪する兄妹の生活は涙を誘う話ばかりで、ありのまま取材して記述する。北朝鮮の子供たちが過ごす生活の一面面を同情を持って見ていただければ幸いである。

1999年7月、取材者 パク・ホン

◆ 食糧配給が途絶えた北朝鮮、両親を失い孤児となったイム・ Chol、イム・ソヨン兄妹。棺を作る板材もなく、布団にくるんで母を埋葬したわずか10歳の兄は妹の命を救うために、妹は兄について物乞い、盗み、拾い食いをしながら、毎日死に神が付いて回る北朝鮮の市場を浮浪した。そうしながらも兄は妹に勉強させよ

うとあくせくし…お腹をすかして学校に行けず、部屋に倒れている子供たち…朝起きてみると一人、二人死んでいく放浪仲間。幼くしてあまりにも大きな悲劇を体験しながら生き残った兄妹の物語は「同胞を忘れ」、同胞に対する同情も、金正日に対する恨みもない南朝鮮の人々に何を伝えようとしているのだろうか。

以前より大分減った米袋

ぼくの名前はイム・ Cholで10歳、妹の名はイム・ソヨンで8歳です。故郷は咸鏡南道高原郡水洞区の炭坑村です。育ちながら、ぼくたちは幸せでした。ぼくは幼稚園に通う時、利口で顔立ちがいいという評判で村の大人たちに愛され、可愛がられました。そして幼稚園では数の数えもよくでただけでなく、友達への面倒見がよく、仲良くしていたので赤い五角星を一番たくさんもらいました。

ぼくが人民学校に入るとともに妹のソヨンは幼稚園に通いましたが、とっても可愛かったです。妹は歌と踊りが上手で、300人ある幼稚園生の中で最も人気者でした。お母さんにきれいに化粧してもらい、舞台上立つと妹はいつも舞台の真ん中で公

演プログラムを紹介したりして主役を務めたが、一番可愛いでした。ぼくは人民学校でいつも5点を取って最優等をし、先生たちの誉め言葉を浴びながら組長をしていました。振り返ってみればこの中国の地に比べ、食べ物には豊かではありませんでしたが、数年前までは本当に良かったのです。

トウモロコシのご飯に味噌汁だけで学校に通ってもそばにお父さん、お母さんがいてぼくたちを可愛がり、よく誉めてくれたので幸せでした。

ぼくはその時から大きくなったら科学者になり、ぼくが乗れるトランクくらいの車を作ろうと思ったし、椅子くらいの飛行機を作っておばあさんの家にも自由に遊びに行きたいと思っていました。妹のソヨンは両親の前でアナウンサーになりたいのだ、有名な映画俳優になりたいのだと毎日のようにはしゃぎました。

ところが、数年前からぼくたちの夢は破れはじめました。家にあるお米とトウモロコシが底を突いても配給所では食糧を配給してくれませんでした。お母さんはぼくたちにトウモロコシのお粥を作ってくれながら、毎日配給所に出かけて配給を待ちました。そしておよそ十日近く待ってやっと以前の配給よりかなり少なめの米袋を持って帰ってきました。お父さんは炭坑の仕事がきついこともあったと思いますが、ろくに食事ができなかったのに家に帰る時はいつも元気ありませんでした。

お父さんが友人たちと酒盛りをするような光景などまったく見られなくなりました。お父さんは家に帰るとすぐ横になり、お母さん一人だけが山や野原に出て草を摘んできてはトウモロコシの粉に混ぜてお粥を作りながら苦労しました。お粥を作ると、お父さん、ぼくとソヨンはどんぶりで一つずつ食べ、お母さんはどんぶりで半分くら

い食べました。それでもぼくとソヨンはそれほどお腹が空かなかったのですが、お父さんとお母さんは大人のせいかな、まったく元気がなく、いつも憂うつな表情をしていました。

ぼくより物心のつかないソヨンはそういうことには無頓着で、幼稚園に行ってくるととめどもなくしゃべりまくりました。幼稚園で習った踊りや歌を歌いながら家中を騒がせました。お父さんとお母さんはがんぜないソヨンの踊りと歌を見ながら、昔ながら一緒に歌も歌い、踊りも踊るのですが、ただ力泣く笑うだけでした。

家族の前で殴打されたお父さん

朝幼稚園に行く時、ソヨンはいつもおやつを作ってくれとだだをこねました。お母さんは以前のように小麦粉とか、トウモロコシのチヂミは作ってあげることができないので、家で食べる草にトウモロコシの粉を入れ、臼で搗いて作った草餅を毎日二個ずつ新聞紙に包んであげました。

それでもソヨンは喜びました。おやつを持ってこられない友達もいるのに自分は毎日持って行くといつて「うちのお母さんが最高」と自慢しました。

その後、ずっと配給所から配給が出なくなると、お父さんも仕事に出ることができず、お母さんいっしょに草を摘みに行きました。夜暗くなっても戻らない両親を待っている時は、ぼくはソヨンといっしょに茹でて置いた草をぐっと絞って水気を取り、少しずつ噛みながら家の外でずっと待っていました。

このような日々が続きましたが、お父さん、お母さんがいなくなった今になって振り返って見ると、本当に懐かしい思い出です。お父さんとお母さんが草をいっぱい詰

め込んだ背嚢を背負って庭に現れると、ぼくとソヨンはあまりのうれしさに両親にぶら下がりました。

「お腹空いたよね」と言いながら、お母さんは台所で草にトウモロコシの粉をこね、お父さんはその隣で臼で餅を搗きました。餅を搗きながらお父さんはごつい手で餅を取ってはぼくとソヨンの口に次々と入れてくれましたが、その餅がどんなにおいしかったか知りません。

ところが、お父さんはその時から職場の人にあれこれと後ろ指を指されることが多くなりました。お母さんといっしょに草取りに通っていたので仕事に行けなくなったからです。

職場から人が呼びに現れ、仕事に出ないからといって外に連れ出して情け容赦なく殴りました。お母さんが泣きながらあの人たちを引き離してやっとお父さんを殴る手をやめました。ぼくは幼い心ながらも憤慨し、あの人たちをにらみつけました。その中の一人だけははっきり覚えています。ぼくと同じクラスにいるキョンマンの叔父でしたが、ぼくは必ず復讐してやろうと決意しました。そして数日後、ゴム紐のばちんこを作って夜中にあの人家に行き窓ガラスを2枚うち壊してから逃げ帰りました。

お父さんは職場に連れ出されてはよく非難を浴びせられました。翌日からはお母さん一人で草取りに通い、お父さんは職場に出勤しました。お父さんは職場から帰る時いつも重い石炭背嚢を背負ってきましたが、ぼくたちはそれでお粥やら草餅やらを作って食べました。

かまどにくべる石炭は無煙炭ですが、真っ黒な粉石炭です。手のひらにくっつくように取れません。

ぼくの家ではずっと草粥だけ作って食べ

たので、ぼくとソヨン、パパとママは見る見る肉が落ちました。お父さんの顔は顴骨が目立ち、お母さんの目は谷のように窪みました。ふっくらとしたソヨンの顔と手は年寄りのばばのように細り、棒のようになりました。ぼくも足が細くなって力が出ず、しきりにどこかに座りたくなりました。パパとママはぼくたちを食べさせるために、家のタンスやミシン、新しい布団を売って米と交換しました。

以前は明るかったぼくの家は布団だけが部屋の片隅にどかんと置かれ、他に何もなくながらんと置いて、寂しい限りでした。いま、見知らぬおじさんの質問に答えながらも必ず言うておきたいのはパパ、ママと家族全員で暮らしたころ、ぼくの家はどれくらい幸せだったか知るまいと何回も繰り返して話したいのです。

中国の地でいま食べているお米のご飯もパパ、ママがぼくたちのどんぶりに分けてくれた草粥よりおいしくありません。ぼくの家はワンルームでパパとママが真ん中に寝、その横にぼくと妹が寝ていましたが、いまは蹴飛ばした布団を掛け直してくれるパパ、ママもいません。

睡眠中に夢を見て眼を覚ましてみると、いつも妹だけしか側にいないので「これからぼくがパパ、ママなんだな」という思いに駆られ、必ず妹に布団を掛け直してあげます。

妹のソヨンも夜おしっこで起き、再び寝る時はぼくの布団をしっかりと掛け直してくれたりしますが、幼い子ながら、お母さんのようにと、ぼくは妹に知られないように布団の中で泣いたりしました。

食糧探しに行ったお父さん

1997年3月のことでした。家中の売

れそんなものはことごとく売り払ってトウモロコシと交換して食べたのでもう食糧を工面する方法がなく、両親はいても立ってもいられませんでした。

ある日、パパは炭坑の仕事から帰るとママと相談しました。炭坑では石炭生産を中止したので食糧探しに行く人は行ってもいいと宣布したということです。それで、パパも黄海道にある親戚の家にトウモロコシをもらいに行ってくると言いました。当時、ぼくの家ではパパが食糧探しに行かないとどうにもならない状況でした。

咸鏡南道新浦市で暮らしていた母方の祖父と祖母が食べ物がなく、ぼくの家で暮らすとやってきたからです。

もともと食糧不足だったぼくの家は口数が増えると草のお粥もどんぶりで半分しか食べられませんでした。それに祖父と祖母は食べたがる物があまりにも多かったのです。ニシンやら平目も食べたがっていたし、豚肉も食べたいと毎日子供のようにだだをこねるのです。すると、パパは母に「お年寄りたちは栄養失調で体が衰え、あと何カ月も持ちそうにないので食べたがる物は何でも食べさせなさい」と言いました。

そこで、パパが時々市場に石炭背囊を背負って行って魚と交換してきて、ぼくたちには食べられないようにし、祖父と祖母にだけ食べさせました。このような具合でぼくの家は食糧事情はますます厳しくなり、やむを得ずパパが食糧探しに出掛けたわけです。パパは3月25日に家を出て高原駅に向かいました。

パパが出掛ける時、ママは新聞紙に途中の食事にと、草餅10個をこしらえて空いている背囊に入れてあげました。ぼくと妹は「父さん、お米いっぱい持ってきてね」と言ってパパを見送りました。パパは背囊から草餅を二つ取り出してぼくと妹の手に

握らせながら、ママの言うことをよく聞きなさいと言いつけました。

外祖父と外祖母の死

しかし、これがパパとの生き別れになるとは誰も想像だにできませんでした。1カ月経ち、2カ月経っても食糧探しに行ったパパは戻ってきませんでした。家では食べ物が底をつき、ぼくたちは草だけ茹でて食べながら暮らしました。妹のソヨンは毎日街に出かけては草餅でも食べている子たちをうらやましそうに見やりながら、指を口に加え、よだれを流しました。

ぼくも勉強する気がまったく起こりませんでした。そのうえ、ママが一日中食べられそうな草やトウモロコシの芯を拾って加工していたので家には燃料がなくなりました。仕方なく、ぼくはやっとなつの子供であつたにもかかわらず、パパの代わりに石炭背囊を背負って石炭を運ぶことになりました。学校はもちろん行ける状態ではなかったのですが、敢えて行こうともしませんでした。学校にはぼくのように家庭事情が厳しく、学校に来られない子供たちが何人かいたものでそれほど悲しい思いはしませんでした。

ただパパが戻ってくるまで、ぼくが苦勞するママを手伝ってお粥を炊く石炭を運ばねばならないということだけが一日中頭を支配しました。

石炭はぼくの家から10里（訳者注：1里は500メートル）離れた炭坑区域に行き運んでこなければならぬのです。無煙炭なので顔と服はいつも真っ黒になり、ろくに食事が取れなかったせいか、全然力が出ませんでした。それでもぼくは歯を食いしばってやっただけで、10歳になったいまでも運びつらい10キロもある石炭を午

前と午後と2回も運びました。

それでもパパは戻ってきませんでした。パパが出かけた数カ月後の1997年6月、ぼくの家で暮らしていた外祖父は草のお粥さえなくてまともに食べられないまま、61歳で亡くなりました。外祖母もまもなく祖父の後を追いました。

ぼくと妹はあまり涙が出なかったのに泣きませんでした。ママは悲しく泣きました。「ちゃんとしたご飯も一口食べられないままこの世を去ったらどうするの」とママが泣きじゃくる声はいまでも耳元に響いています。

ママが死体を埋める棺を用意してくれと、ぼくの手を取って3回も炭坑に足を運びましたが、板材がないと一言で断られました。

祖父と祖母の死体を5日も部屋の片隅に置いておいたので、死骸が腐る臭いに吐き気がして辟易しました。

村人たちが見るに見かねてママと相談し、古い板でこしらえたぼくの家は物置を壊して棺を作りました。見るだけでも貧弱ですが、穴が空いた棺に祖父と祖母の死体を入れると、その穴から外を見ているような気がしてぼくと妹はおっかなくて逃げ回りました。

その日、お母さんは長く伸ばしていた髪の毛を切って取り換えてきたお米の餅を本当に久しぶりに2個ずつ食べました。祭祀に供えておいたお米の餅だったので。

その後のことでした。保衛部と安全部の部員たちが相次いでぼくの家を訪ねてきました。そのたびに「このあまめ、お前の主人野郎はどこへ行った？」と母をむやみにののしりました。日によっては呼ばれて行ってお父さんの行方を聞かれることもあった。お父さんが行方不明になったからその行方を教えろ、ということでした。食べ物

がなく毎日草を摘み、トウモロコシの粒を臼で搗いて粉にしなければならぬママなのに、あの人たちはともすれば時間のないお母さんと呼んでののしったり、引き立てて行ったりして散々苦しめました。

お母さんは黄海道にいる親戚の家に手紙を出し、人づてに便りもしたりして調べてみましたが、あそこには行っていないということでした。だからお母さんだってパパの行方を知っているはずがありません。村人たちは、ひどく混雑する列車の中で不慮の事故に会ったとか、道ばたでお腹が空いて倒れたとか、いろんな推測をしました。

パパの思いでママはさらに氣力をなくしました。相次いで不幸が襲いかかり、毎日草を摘みながら大きな精神的打撃と肉体的負担を背負っていたお母さんは次第に病気がちになりました。そうしながらもぼくと妹がパパがいつ帰るか聞くたびに、「もうじき帰ってくるだろう。パパはいいパパなんだよ」と極力笑顔を作ってみせようとしていました。

ぼくもパパの思いでいつも心がふさぎ、パパが去って行った遠い空をずっと眺めていました。そのたびに弁当に草餅やごった煮を炭坑に持って行けば帰宅の際、必ず2個ずつ残して持ち帰り、ぼくと妹の口に入れてくれたひげもじゃのパパの姿が大きく浮かんでいました。

パパのいなくなったぼくの家はほこりだけが巻き起こる砂の家を彷彿させました。

(つづく)

(『月刊朝鮮』から 李東哲訳)

(1) 日本語を母語としない人のための
実践日本語作文講座

日本語で文章を書きたくてもなかなか思う通りに行かなくて困っている方、たとえ書いたとしても日本語らしくない日本語であるために悩んでいる方、卒業論文や修士論文を書かなければならないのに日本語作文に自信のない方のために開く講座です。文章をうまく書くための空論より、実践を重要視し、受講者に実際作文を書いてもらって、どこがどうおかしいのかを講師と受講生がいっしょに考えながら作文能力を延ばしていきます。

時間：毎週最後の日曜日午後3:00-5:00 (休憩あり)
謝礼：毎回1,000円 (受講料前納制・3カ月分)

(2) 英語講師募集

中国から来日した朝鮮族の中には、中学校・高校を通して外国語として日本語を習った人が多いので大学・大学院進学の時、または日本の企業に就職してから英語の ABCD もできず、悩んでいる方が大勢います。このような方たちのために、安い授業料で英語を教え、彼らの悩みを多少なりとも軽減してあげたいと思いますので、半分ボランティアで基礎英語を教えらる自信のある方は積極的に応募していただきたいと思います。大学などで外国人教師から英語を習った方で発音のきれいな方は大歓迎です。同胞のために英語を教える気持ちのある方はどうぞ！

(1)、(2) とも下記へ連絡してください。

日・中・韓国語学研究所 TEL: 03-3592-9005
FAX: 03-3592-9064

본사소식 :
999 쌍의 중국인 선남선녀가 한국 제주에서 세기말을 기념하는 합동결혼식을 올린다.
제주도관광협회는 중국관광객유치 차원에서 중국인들이 장수와 행복의 의미를 지녔다 해서 가장 좋아하는 숫자 9가 접치는 1999년 9월 9일 오전 9시 9분 9초에 제주에서 대규모 합동결혼식을 거행키로 했다고 9일 밝혔다.
합동결혼식 행사명은 《'99세기경전(世紀庆典)》으로 중국에서

《세기의 축제》바야흐로 진척중

중국남녀 999쌍 한국 제주서 합동결혼식 거행키로

어도 3000여명이 제주를 찾을 것으로 전망하고있다.
중국
CCTV 도 동행취재에 나설 예정이다.
제주도관광협회 진대식사무국장은 《래년 밀레니엄행사의 프리 이벤트로 999쌍 결혼식을 추진하게 됐다》며 《중국인들이 진시황의 〈서불과지〉전설 때문에 제주를 불로초의 땅으로 여기고있는만큼 신혼부부 모집은 무난할 전망》이라고 말했다. (류재복)

장백의 메아리— 너도나도 한마디

[长白之声★★ 大家说一句・長白のメアリ★★皆で一言]

天池倶楽部の会員の間ではE-mailによる情報交換が最近とても活発に行われています。今回、その中で天池倶楽部の一部会員が8月28・29日に房総半島へ親睦旅行に行ってきた後、天池倶楽部の活動の在り方について出されたコメントをご紹介します。今後とも皆様が多様な方法でこのコーナーに生の声を寄せてくれることをお待ちしております。
『天池人文』編集部

金 炳哲様:

おかげさまで無事到着しました。ご心配させて申し訳ありません。私も途中で金尚太さんと別れたが、やはり幕張で渋滞にあい、家に着いたら8:00時。9:00時頃金尚太さんのPHSと自宅に電話入れたが、不通でした。10:00時以降だと思いますが、逆に韓さんから確認の電話があつて金尚太さんも無事だったことがわかりました。この度は金さんのおかげでたいへんたのしいバカンスでした。どうもありがとう。

話はかわりますが、実は土曜日は私の「生辰」で、その意味でも皆さんから祝福の集まり、祝いを受けたような気持ちです。残念なのはみなさんはもちろん、私自身も旅に立ったらすっかり忘れてしまつて、今日ふと思い出した次第でございます。でも、だからこそいい思い出になるかも。再度感謝の意を心よりお表しします。

黄 正浩 99/8/30

黄正浩様及び皆様:

いつもお世話になり誠にありがとうございます。

遅ればせながら、お誕生日おめでとうでございます。前もってわかつたらみんなでお誕生日ケーキでも買ってお祝いしたら良かったと思います。次回にやりましょう。

無事生還者: 金 炳哲一家 黄正浩ご一家 金 尚太ご一家 韓学峰ご一家

未確認者: 金万寿、李東哲、金光林ご一家です。機動隊並び住民は行方不明者の情報をご提供下さい。

金 炳哲 99/8/30

皆様へ:

先週の土曜日、日曜日に天池倶楽部の活動として千葉九十九里海岸の大原町の海水浴場に行ってきました。天気も晴れていたし、海もとてもきれいだったので本当に楽しかったです。特に金炳哲様(小池酸素工業(株))が宿泊所を手配してくれて皆様は安い値段で立派な屋敷に泊まりました。日々の職場の多忙な生活でたまつたストレスが残暑とともに一気に吹っ飛んでしまったようです。今後もこのように自然と触れ合う機会をたくさん作

韓国文化院主催 韓国映画鑑賞会のご案内

りましょう。一部の方の申し込みが遅れて参加できなかったのが残念でした。

今回の活動を通して次のようなところを感じました。

・今後の活動において必ず事前に期限内に申しこむこと。

我々にはどうしてもその前日、当日になって決める癖があるんですが、直さなければならぬと思います。

・Internet (E-mail)をできる限り、習得及び使えるような環境を作ること。

今回の活動でもInternetでのE-mailの交換が大変役に立ったのです。

周りの友達を動員してInternetに加入しましょう。

最後、今回の活動で終始皆様の世話役に徹して下さった金炳哲様に心から感謝します。なお各方面でお支援いただいた方々にも感謝の気持ちをお伝えください。さらに、車で皆様の運んで下さった金尚太、黄正浩様にも感謝します。

金 万寿より 99/8/31

皆さん：

大変羨ましく思っています。僕は先週の土曜日出勤で行けなかったんですけど、皆さんの活動はとても体と精神に良いことだと思うし、これから皆さんの新しいグループ活動のきっかけになるだと思います。金さんがおっしゃたようにもっとコミュニケーションを増やし、また新しい考え方、新しい文化を習得しましょう。

どうもお疲れさまでした。

宋 虎岩 99/8/31

金炳哲様：

おはようございます。今朝、メールと今回の旅の会計報告書を見ました。一語で言えば本当にお疲れ様でした。旅行の企画、世話から最後の会計報告までけっこう時間がかかり、神経も使うことだと思います。会計報告を見ると、我々が出すべきものをあまり少なく出したような気がします。

次に会計報告を見た感想を一語書いてみます。

まず、金さんが企画、世話までやったから会計報告は適当に他の人に任せたら仕事を減らせたかもしれません。それでも実際は小池荘との後の連絡事項もあるからつい一人でやらなければならないと思います。もっと規模の大きい活動だと仕事を分担して、一人が過度に疲れないようにするのも団体活動としての知恵ではないかと思います。

次に、面倒ではあっても今回のように会計報告を公開する方が、団体活動の透明性、公開性を高め、それによってその団体が人々の信頼を得ると思われれます。また会計報告をすると、組織者の苦勞が分てくることもあります。

最後に今回の旅のために本当にお疲れ様でした。

金 光林 99/9/2

【10月】

『コンタクト』(原題 = 접촉)

日 時 : 1999年10月14日(木) 18:30~

製作年度 : 1997年 (104分)

監 督 : チャン・ユンヒョン

出 演 : ハン・ソック、チョン・ドヨン ほか

あらすじ : 昔の恋人に対する恋しさで閉鎖的な日々を送る男
トンヒョンと友人の恋人に片想いをする女スヒョン。
二人はパソコン通信で出会い…。(日本語字幕付)



【11月】



『霧の柱』(原題 = 안개기동)

日 時 : 1999年11月5日(金) 18:30~

製作年度 : 1986年 (115分)

監 督 : 朴哲洙

出 演 : 李永河、崔明吉 ほか

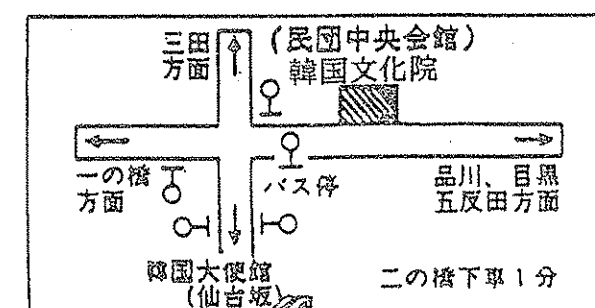
あらすじ : 秀才と才女の結婚。人もうらやむカップルが誕生
したが、やがて夫の浮気、別居、和解を繰り返して
いくうちに…。(日本語字幕付)

※ 上映日が11月18日(木)より変更になりました。

会 場 : 韓国文化院ホール (中央会館8F)

〒106-0047 東京都港区南麻布1-7-32 Tel 03-5476-4971 Fax 03-5476-4976

- 入 場 無 料 : 先 着 150 名
- 尚、本編に先立ち文化映画を上映致します。
- 皆様お誘い合わせの上、ご来場下さいませようご案内申し上げます。
- 交通 : 都バス『二の橋』下車すぐ
(新橋・渋谷・五反田・目黒・神谷町・広尾・虎ノ門・大門・芝公園などから)



担 当 : 金 康 植

Tel 03-5476-4971

に対する外国の帝国主義の仕掛ける陰謀の道具となるかもしれないということとを我々は念頭から消すことはできない。

もとよりソ連を警戒し、いつかはソ連と戦争することを考えていた日本国家は、この朝鮮人の中にスパイを入れたことを疑う余地はない。

③それでもソ連籍の朝鮮人たちが頑張ってボシエツト民族地区を作った。二七年八月二十九日付で、中央ソビエト幹部会が「朝鮮人の民族的行政単位を作るようにせよ」という勅告を極東地方執行委員会に送る。それに従って、ウラジオストクの西側、朝鮮との国境に寄ったボシエツト沿って朝鮮民族地区が生まれる。モスクワのスヴェトラナ・ナム女史の言及によれば、二八年の報告にはこの存在が出てくる。したがって、ボシエツト民族地区が生まれたのは二八年の初めと考えること



シンポジウムのコーディネーターの方々

ができる。ボシエツト民族地区では朝鮮人の比率が九割を占める。三七年、朝鮮人の人口は二万四千人。

二九年に始まった農業集団化の中で、朝鮮人の生活は大きく変わる。朝鮮人農民もホルホーズ農民になり、それが嫌な人はソ連を去り、国境は閉鎖され、残った人々は皆、ソ連国籍を取得することになった。私の研究したところでは、朝鮮人はホルホーズ化に積極的であつたと見える。これまでの生活を変えたい、向上したい、それには一層ソビエト化することだ、と考えていたようだ。

朝鮮人のリーダー、アパナツシ・キムの運命

極東の朝鮮人共産党員の中で若手の実力者は一九〇〇年生まれのアパナツシ・キム（キム・テルミル氏の妻父である。モスクワ研修から帰ったアパナツシ・キムは、ボシエツト民族地区のMTS機械トラクターステーション整備主任に任命された。農村でホルホーズ化を進める国家の代表者である。アパナツシ・キムはボシエツト民族地区のホルホーズ化を九〇％まで高めた。彼は三四年、第十七回ソ連共産党大会に、極東組織の代表として出席し発言した。彼がとくに強調したことは、朝鮮人は自らの祖国、ソ連のために闘う決意だ」ということだ。

「我々は知っている。ソビエト連邦こそ我々がプロレタリアートの祖国である」ということを、我々は知っている。朝鮮人ホルホーズ員、朝鮮人労働者の使

命はソビエト領極東の我らの赤き国境を、最後の血の一滴までも捧げて守り抜くことにあることを」

すでに満州事変が起き、日本の中国侵略が始まり、ソ連は満州にもついていた北滿鉄道を日本に売却することを余儀なくされていた。西では三三年、ヒトラーがドイツの権力を掌握、ソ連は東西から日・独の脅威に晒され、極度の緊張の中にあった。

極東中央委員会書記ラフレンチェフは、アパナツシ・キムを高く評価している。三四年夏、第五回極東ソビエト大会で、彼は「朝鮮人ホルホーズはどのホルホーズよりも早く国家義務をすべて履行している。そこには沸き立つエネルギーがある」と述べている。三五年、コミンテルン第七回大会で、反ファシズム人民戦線の方針が採択され、日独との対決がソ連の国家目標にもなった。その時、ソ連共産党内では賞賛の点検というキャンペーンが行われ、経歴に疑問のある人があぶり出されていった。それとどういう関係があったか未だははっきりしないが、朝鮮人の中で最もソ連に忠実に闘うことを呼びかけたアパナツシ・キムが真っ先に日本のスパイ容疑で逮捕された。朝鮮人強制移住白書」第一巻は、彼の最後を三六年秋としていた。私は自分の論文の中で、三五年末、と考えていたが、この度、この学術会議の資料集に記されたアパナツシ・キムの経歴の中に、父アパナツシは三二年二月逮捕と記されている。これは新しい情報である。アパナツシ・キムが逮捕されたとい

うことは、ボシエツト民族地区の朝鮮人幹部全員が逮捕されることに連なっていると思われる。コミンテルンで活動してきた古い朝鮮人共産主義者活動家は全員、逮捕された。アパナツシ・キムは後、三八年五月、秘密裏に裁判にかけられた。二九年から日本の手先になり、関東軍の依頼で反ソ蜂起を準備する極東朝鮮人蜂起センターの組織者の一人となつた、として死刑判決を受け直ちに処刑された。

ソ連は、独、日という東西両隣りの急激な右傾化の情勢に緊張し警戒

――五萬の難民を大量処刑

アパナツシ・キムが逮捕された後、沿海州朝鮮人のトップの地位に上がつてくるのが、後に北朝鮮の党のナンバー2をなしナンバー3になるホ・ガイことアレクセー・ヘガイ（一九〇八年生）である。彼はアパナツシ・キムらが逮捕された後、ボシエツト民族地区にコムソモール委員会第一書記として送り込まれ、半年後には地区党委員会第二書記に任命される。第一書記はロシア人であるから、二十八歳の彼がこの地区の朝鮮人党員のトップに立つたことになる。

三六年七月、スペインでフランコ反乱が起これ、スペイン内乱が始まると緊張した雰囲気の中、ソ連では八月、最初のモスクワ裁判がありジノヴィエフ・パーメネフら、革命の元老たちがドイツの手先として処刑される。九月にはシベリアのデメロン炭坑の爆発事

特集

沿海州に戻ってきた中央アジアの朝鮮人集団定着村で農業を開始

このシンポジウムは世界人権宣言五十周年を記念して、昨年（一九九八）十二月二十八日、大阪で開かれた。主催は国際日韓朝鮮人研究学会と在日韓国研究会、NHK大阪、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞が後援した。

これまで日本ではあまり紹介されることのなかったロシア朝鮮人の歴史について、会場を訪れた百六十名余の聴衆は認識を深めた。報告者は東京大学名誉教授・和田春樹氏、ソウル大学名誉教授・李光奎氏、ロシア沿海州高麗人再生基金会長・キム・テルミル氏、ソシノフ・イグシヨシ作家・高賢信氏、一橋大学助教授・李妍淑氏、京都大学助修員・李卓氏の六人。

開会にあたり、主催者代表として挨拶にたった徐龍運氏は、「世界人権宣言五十周年を記念して、今日の日本社会の中で、人権が等しく守られているのかということと関連して、ロシア沿海州の朝鮮人強制移住の問題をみていきたい」と、シンポジウム開催の趣旨を述べた。

報告1

ロシア沿海州から中央アジアへの韓朝鮮人強制移住

和田春樹（東京大学名誉教授）



和田春樹氏

最初の報告者は、東北アジアの国際関係において、とくに極東ロシアにお

ける朝鮮人研究の草分け的存在の和田春樹氏。

和田氏は沿海州の朝鮮人が中央アジアに強制移住させられる原因と過程について、日本の国家的スパイ工作との関連を多くの資料に基づいて明らかにしていた。和田氏は、ソ連の朝鮮人の強制移住の問題に対して、日本は責任を負うべきだと明確に主張している。以下、報告の全内容を掲載する。

ソ連農村のホルホーズ化の積極的担い手であつた朝鮮人

強制移住に至る沿海州朝鮮人の生活について考えることが必要である。まず三つの点を指摘する。

①革命とシベリア戦争後、沿海州では米作が盛んに行われ、朝鮮人がその担い手として働くことになった。一九一九年にはゼロであった米作面積は三二年、四二五ヘクタールに増えた。二八年、一七六四一ヘクタールに達し、四倍になった。

水田の六割を占める園地プランテーションもほとんどが朝鮮人の小作農によって耕作されていた。小作農は高額の地代を納めた。朝鮮人は革命前と同じような存在と見られていた。「ソビエト権力のもとで、この地方の朝鮮人の状態は改善されたものの、彼らはなお、著しい程度においてペリアである。多量農時代に支配的であつた朝鮮人親は残念ながら今日に至るまで、克服されたというわけではない。多くの人々は、朝鮮人を今日も、収奪しやすい、収奪

するに得る労働力とみなしている」とアノソフという論者は二八年と述べている。

これが革命後十一年目の評価である。②ソビエト時代にも朝鮮国境は開かれたままで、朝鮮からは出稼ぎ農民、労働者が流入し続けており、沿海州にはソ連国籍を持たない大量の在ソ朝鮮人がいた。二三年の調査では、沿海州の朝鮮人は一〇六、八七一人、そのうちソ連国籍を持つものは三四、五五九人で二・四％にすぎず、七割が国籍を持たない朝鮮人であつた。一六年の全極東の朝鮮人数は一六八、〇〇九人うちソ連国籍者は八四、九三二人で五〇・六％。沿海州では国籍取得者が少なく、他の極東地域では国籍取得者が多い。

合法、非合法の流入者は二〇年代後半、毎年五千人を超えていた。となると、帝政期の朝鮮人危険復讐の思想も復活してくる。アルギーボフという地理学者が二度にわたって書いている。「日本との古くからの敵で、彼らにとつて住み慣れた土地から追い出されてきた朝鮮人さえ、いつかはソビエト

あつた。

強制移住は三十七年十月二十五日をもつて終わった。一七二、七八一人が中央アジア、ウズベク共和国とカザフ共和国に送られた。極東にはモスクワ、カムチャツカ、オホーツクなどに七百人の朝鮮人が残っただけである。ユシコフによれば、強制移住措置の過程で二千五百人が逮捕されたといわれている。出国を希望する者は出国して良いと命令には書かれていたが、岡泰洋氏はこの点について、朝鮮人の反応について書いている。

「出て行つて日本人と暮らすなどという愚かな者は今はいない」
「我々はもう長いことソ連に住んでいる。満州よりこのほうがいい」
という声が紹介されている。

私が日本陸軍の文書から発見したものに「金基雲基礎調査」というのがある。ウエジンスカヤ村に住んでいた六十歳の農夫が「中央アジア行きを拒否し、出国を許されて、他の老人十四名、及び孫とともにGPUの取り調べを経て、夜、国境を越えた」と日本軍に供述している。この供述について、金賢汀氏は「この人々はソ連当局が国際裁判とくに日本の非難をかわすために送り出された人々ではないか」と見ている。しかし命令には「出国を望んだら、出国させる」とあるのだから、現実には現場の判断として難しかったとも思われるが、出国した人はいない。しかし、日本から逃れてきた人の中には、日本の支配下に返るといふ選択はなかった。

故があり、これがドイツ人とトロツキストの犯行とされる。極東で出されていた朝鮮新聞「ソソホン」は、このテメロン裁判の検事の論告を大きく報じており、極東に与えた印象の強さがわかる。

三十七年一月には、第二モスクワ裁判があり、ラトホフらがドイツ及び日本の手先として死刑判決を受け、処刑される。当時、内務人民委員は軍内部に裏切りがあると疑い、それを調査する過程で、極東で長年活動していた軍の要人、ラマルニクの人脈に対する嫌疑を深めていた。三十七年一月、その関連で、アパナシ・キムの識者であった極東中央委員会書記ラフレンチェクが解任される。五月初め、ブラゴウエシチェンスク近くのスヴァボードヌイ市で四十四人の鉄道員が裁判にかけられ、日本のスパイとして全員、銃殺された。

満州の鉄道に働いていて、ソ連がそれを日本に売却したので、ソ連に戻ってきた鉄道員に対する裁判と処刑は続く。同年五月中旬にウラジオストックで二十一人、六月四日、スヴァボードヌイで二十八人、六月二十日、ハバロフスクで三十七人が銃殺された。七月一日、ソ連共産党政治局は、流刑地から刑期を終えて帰ってくる元ブラークや集団員たちの逮捕者たちを再審査し、最も敵対的分子は即時逮捕、銃殺し、それほどでなくとも敵対的な分子は追放するという決定を下した。

これを具体化するために、七月二十日、内務人民委員ゲドフは「八月五日

日本の対応

朝鮮人強制移住が日本の防衛目的であることは素明である。

朝鮮人強制移住に対して、日本側は重大な関心を払った。一九三七年十一月十三日、在ソ日本大使館はソ連政府に対して抗議を行った。その主旨は、朝鮮には国難脱離の法制がなく、日本が併合した後もこれが維持されているので、かりに朝鮮人が他国の国籍を取得しても、日本帝国臣民であることに変わりがない。ウラジオストクの帝国領事館に登録していた者は九百七十八名いた。日本政府は帝国臣民であるソ連在住朝鮮人の強制移住に抗議し、千名について調査を要求する、というものであった。

ソ連側は十一月二十七日、この抗議を拒絶する旨、回答した。「ソ連市民である朝鮮人の問題に、日本が介入する権利はない」というものだった。

日本側は、この強制移住がどのような理由でなされたかを承知していただろうと思われる。この移住でスパイ活動が困難になったことも確かである。日本外務省の文書の中に、一九三八年八月二日、満州在住の朝鮮人農夫で日本官憲のスパイをしていた人物が、ハバロフスク方面への潜入を図ったことに関する報告書がある。

「以前は知人がおりまして、宿泊や食料は次々、知人の家やつかいになることができたが、満人や鮮人は全部、中部ロシア方面に強制移住させられたので、今では一人も知人がなく、

行動するにも非常に不安です」

対ソ諜報に関心を持つ諜報本部ロシア課長・松田三郎は、著書の中で、「強制移住の理由は当時知りえなかったが、後にそれは防諜の目的で行われたことを知った」と書いている。しかし、彼らは別のところで「ソ連で国内諜報が行われ始めてから、外国人とくに日本人に対する警戒が厳重になったため、スパイを使う余地がほとんどなくなった」と打ち明けている。その関連で朝鮮人強制移住の事実を挙げています。

朝鮮人の強制移住は非人道的な人権侵害で、非常措置であったことはいうまでもない。厳しい国際対立の中で、日本からのスパイ工作を妨げるという政策立案がなされ、日本側はソ連国家の力を印象付けたことは明らかである。その意味で、朝鮮人の悲劇はスターリン政策の結果だが、原因の一端は日本がソ連に加えた圧力にあることは否定できない。日本もこれに関して責任を負うべきだと思ふ。

複雑なのは、翌三八年六月十三日、強制移住の工作を担当し、スターリンから信任を得たユシコフ内務人民院ハバロフスク局長が朝ソ国境を越えて日本側に亡命したということである。朝鮮人からすればやりきれないことであつたろうと思われる。

移住先での生活

移住先で朝鮮人生活を送っていたのは辛い生活だった。与えられた条件は引き

に対する出国を命令している。二十九日には極東赤軍に勤務する朝鮮人、一般兵士は除隊させ、中央アジアに移住させること。将校である朝鮮人は内陸部へ配置転換させるとの命令が出された。命令が出ても、朝鮮新聞「ソソホン」には一言も強制移住のことは書かれていない。

その裏で、党組織、行政組織は命令の執行におおわらわであった。ボシエツト民族地区では党第二書記アレクセイ・ヘカイが命令の実行に動いている。第一陣は九月に出発し、同月二十三日に終わることになっていたが、実際にはこれは第一陣であり、第二陣は九月二十四日から十月三日まで行われた。内務人民院代理チエルヌイシヨフの報告で、七万八千人が追放されたというのは、第一陣と第二陣を合わせた数字である。

第一の命令は国境地区の朝鮮人の強制移住であったが、九月二十八日になると第二の命令が下される。「極東地方に居住する残りのすべての朝鮮人を強制移住させる」というソ連閣僚会議の命令が出された。第二の移住を進めるには、チエルヌイシヨフは「朝鮮人は親族の繋がりが強く、一部の朝鮮人を極東に残す日本の工作の格好の基盤になる」と、追放を主張している。

内務人民委員ゲドフはスターリンに対し、「朝鮮人を極東に残すことは合目的でもなく、危険である。彼らも疑いもなく日本のスパイ活動の要因である」と追放を提案した。

第二の追放命令によって、北サハリ

続き過酷なものであった。移住させられた朝鮮人のバスボートには、当初五年間は移住先へのみ居住することができると書かれていた。後、一九四五年七月二日、移住させられたすべての朝鮮人には特別永住民という身分が与えられ、通常のソ連市民としての権利が否定される。ようやく四六年八月二日の決定で、通常のソ連市民と同じバスボートが与えられたが、四七年三月三日の決定では、朝鮮人は中央アジアにのみ居住することが許されることになった。

また移住先では民族語の教育は不可能になった。三八年、少数民族の学校でもロシア語による教育が義務付けられ、カザフスタン政府の決定で、朝鮮師範大学が廃校となった。ウラジオストクのルリー氏は「苦労して極東から運びこまれた大学の朝鮮語の膨大な図書資料が不要なものとしてシルダリア川に捨てられた」と憤りを込めて書いている。中央アジアの朝鮮人には、朝鮮人であることは忘れ、完全にソ連人になりきることが求められた。

ところでソ連が第二次大戦末期、日本との戦争に備えることになると、中央アジアの朝鮮人インテリは、満州朝鮮に潜入するスパイとなることが求められた。その人々の中から北朝鮮初期の要人が生まれている。日本とロシア・ソ連の対立の中で、踏みにじられ利用されたのがソ連の朝鮮人だった。この人々の運命に対して日本も答えるければならない。

ソ連の朝鮮人三千二百人も追放され、十月十八日、ウラジオストックに到着し、そこから汽車で中央アジアに送られた。

一七二、七八一人が強制移住させられた

レーニンの民族政策を踏襲する移住者

この強制移住の措置が朝鮮人に強い衝撃を与えたのは当然である。内務人民院の報告には朝鮮人の不満が記録されている。

「私は一晩中、移住について考えた。レーニンの著作をとって、民族政策についての論文を詳しく読んでみた。しかし、そういう要素はどこにも見つからなかった。ロシア語ができれば新聞に投書して採用されるかどうか見てやるのだが」と語っている。

「ソビエト政権の仕打ちにはこんなものだ。同権をいっているが、そんなものは実際にはありはしないのだ。ロシア人が命令すれば朝鮮人は実行しなければならぬ」と語っている。

シホート地区の農民は、「ソビエト権力は朝鮮人を大以下に扱っている。スターリンの政策は、朝鮮人にとっては機関銃や大砲の弾よりも恐ろしい」と語った。彼は即刻逮捕された。

七、八年前から始まった 沿海州への再移住

そのような再移住の動きが始まったのは、七、八年前からである。最初の再移住者たちは、中央アジアの家を売って、沿海州でかなり立派な家を買った。それができた。しかし、今は、中央アジアでは他の国・地域に移るために家を売ることができなくなった。にもかかわらず若い人たちは沿海州に帰ってくる。この三、五年の間に約三万人が再移住しており、とても苦しい生活をしている。

再移住先は、沿海州のかつて韓国人が住んでいた地域で、中国、朝鮮の国境に近いところ、ウスリー川の周辺などである。この地域は、現在、経済的に中国の植民地になっている。消費物資はすべて中国から買っている。それで沿海州の行政が考えるには、その経済植民地化を防ぐ唯一の方法は、中央アジアから再移住した韓国人に農業

をさせることで、少なくとも食料は自給することができるといって考えである。

歴史的に重大な変化

一九九八年一月、ロシア沿海州の知事が、テルミルさんに手紙を書いた。ロシア軍が沿海州から撤退した後の兵営舎を中央アジアから来る韓国人に与えるという内容であった。そして九棟のアパートを韓国人に引き渡した。最近また二カ所の施設が増えた。

ところがアパートは老朽化しており、その上、調理場などはすでに盗難にあつて無くなつており、居住のために根本的な補修が必要とされている。韓国ではすでに企業を中心とした募金活動を通じて数億ウォンを寄付しているが、韓国内だけでなく、海外同胞による幅広い支援が望まれる。

テルミルさんに依頼がいったのは、沿海州知事はテルミルさんがかつて船

長をしていた時に、一緒に船に乗っていた関係で、個人的にも近い間柄にあるため。もちろん沿海州の利益にも

報告3

ロシア沿海州の韓朝鮮人社会の現状
キム・テルミル(ロシア沿海州高麗人再生基金会長)
通訳・翻訳/大橋ちか子



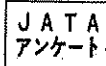
キム・テルミル氏

ロシアの韓国・朝鮮民族が胎動を始めている。そんなふうに見える報告であった。テルミルさんの報告では、

中央アジアの移住先でも朝鮮人は抵抗せず働き続け、高い労働実績を上げたというところ、ここには民族の気概がのぞかれる。また、ソ連崩壊が朝鮮民族に与えた絶望感と喪失感、そして新天地を目指して第三の移動を開始した朝鮮民族、というダイナミックな経過の一端が紹介された。新しい民族の集団定着村で農業を中心に産業を発展させ、民族文化の育成に力を注いでいこうという構想の語に、会場の聴衆は吸い寄せられるように聴き入っていた。

夏休み人気旅行先 韓国がNo.1に

日本旅行業協会(JATA)が今年六月に実施した夏休みの海外旅行の人気調査で、韓国の順位は、調査は全国の会員企業約千三百社を対象に、今年度の旅行先をアンケート調査で、夏休み実施ツアーで人気の旅行先をまとめたもの。一位の韓国に続き、二位



はハワイ、グアム、サイパン、中国、タイなど、アジア諸国が人気。韓国の場合は、二泊三日と行った短期間のツアーで、週末に国内旅行の感覚で、気楽に行ける③円高(買値)④物価が安い⑤⑥クルメやエスエ、面白い物などが若い女性に人気⑦一連のアジアブームをあげている。

留日同学会在北京成立
会近日在北京正式成立。
該会是由留學日本的回國人員組成的群眾團體，致力於加強會員間的交流與合作，發揮留日學人的聰明才智，以各種形式參與和促進國家的經濟、科教以及文化事業的發展，利用留日學人的特殊優勢，推進中日兩國之間各方面的交流。該會已擬定留日學人面向二十一世紀科技創新活動的計劃。

報告2

中央アジアから沿海州への韓朝鮮人の再移住
李光奎(ソウル大学名誉教授)



李光奎氏

在外韓国人の歴史と現状を調査・研究している李氏は、中央アジアに移住した後の韓国人の生活と、コルホーズ建設への貢献度、そしてソ連崩壊による中央アジア諸国の独立がもたらした韓国人への影響などについて報告。その結果、沿海州へ再移住が始まったが、今、沿海州政府の宿舎提供という協力のもとに、再移住の新しい胎動が起きていることについて述べた。沿海州への再移住後の苦しい生活に対する資金的援助の必要性にも言及している。

独立運動の拠点、 新韓村の成立

韓朝鮮人の海外移民史はロシア沿海州に移った一八六〇年代から始まるといえる。最初は農業のために移住したが、後には独立運動のために移った者も多かった。

ウラジオストクに新韓村があった。そこは海外にある韓国人の独立運動の

中心地でもあった。例えばハワイ在住の韓国人が、独立運動のために資金提供をし、資金提供を受けた独立運動家たちが武器を買った場所がこの新韓村だった。そのため、新韓村は韓国人にとって独立運動の中心地として知られていた。

ところが一九一七年、ロシア革命が起これ、ツァーリの支配からソビエトの支配に移った。この時、この村の周辺ではシベリア戦争があった。アメリカ、フランス、イギリス、日本の四カ国がシベリアに軍隊を送った。沿海州にはとくに日本の軍隊が一九一七年から二年まで駐屯した。その時、ロシアのバルチザンと一緒に韓国独立運動の団体に日本の軍隊を攻撃している。それに対する報復として、新韓村は一九二〇年、日本の軍隊によって全滅させられた。

「カレイスキー」は コメの代名詞に

韓国人の海外移民の歴史の中で、一九三七年の沿海州在住韓国人の中央アジアへの強制移住が最も辛い経験として語られている。

韓国人の移民史における三つの大きな惨劇は、①日本の関東大震災による韓国人の大虐殺事件(一九三二)、②ロシア沿海州の韓国人の中央アジアへの

強制移住(一九三七)、③ロサンゼルス暴動による韓国人襲撃事件(一九九二)である。

中央アジアに送られた韓国人は、一番最初にウシトベという町に到着した。それからアルマタ、タシケントといった町の付近に分散していった。

最初の年は大変な生活をした。中央アジアの冬はとても寒い。零下四十度を超える。家を造ることもできず、地下を掘って生活した。翌年の春、運河を掘って水田を作り、米作に成功した。気候は雨が少なく日照量が多いので、水の問題を解決すれば、米作には非常に適した土地である。韓国人はそうして米作に成功したために、ロシア語で韓国人を意味する「カレイスキー」がコメの代名詞となった。

中央アジアのコルホーズ建設 に貢献した朝鮮人指導者たち

タシケントに移住させられた人々の中に金炳相という人物があった。彼はレーニンの表彰を受けた人物で、今でも金炳相コルホーズというのがタシケントにあり、有名である。またタシケントの町の中に金炳相通りという道がある。中央アジアで貢献した代表的な人である。

もうひとつ、ホリトセル・コルホーズという有名なコルホーズがある。ここでは韓マンクンという指導者がいた。

ソ連時代には全土に三万個以上のコルホーズがあった。そのうち、海外の観光客に見学させるために、インツ

なるということ、軍施設の韓国人への引き渡しが実現された。

留日同学会在北京成立

該会是由留學日本的回國人員組成的群眾團體，致力於加強會員間的交流與合作，發揮留日學人的聰明才智，以各種形式參與和促進國家的經濟、科教以及文化事業的發展，利用留日學人的特殊優勢，推進中日兩國之間各方面的交流。該會已擬定留日學人面向二十一世紀科技創新活動的計劃。

留日同学会在北京成立
会近日在北京正式成立。
該会是由留學日本的回國人員組成的群眾團體，致力於加強會員間的交流與合作，發揮留日學人的聰明才智，以各種形式參與和促進國家的經濟、科教以及文化事業的發展，利用留日學人的特殊優勢，推進中日兩國之間各方面的交流。該會已擬定留日學人面向二十一世紀科技創新活動的計劃。

リストというソ連連隊の旅行公社に登録されたコルホーズとしては唯一のものがある。中央アジアに移った翌年の一九二八年から実質、韓国人たちの現地での生活が始まるが、韓国人たちは敵性民族視された。韓国語を学ぶことはできなくなり、他の土地に移動する自由もなくなった。軍人になることはできない。そんな不自由な生活をしてきたが、韓国人たちは非常に熱心に働き、中央アジアの他の民族よりも冒険的な開拓を行い、多くの成果を残しているという点では、今でも高い評価を受けているといつてよい。

ソ連崩壊がもたらした 朝鮮民族の新たな受難

ソ連崩壊後、ソ連邦を構成していた多くの共和国が独立した。独立を果たした各共和国では、それぞれ民族語を国語とした。その結果、苦勞してロシア語を習得し、ホワイトカラーとなっていた韓国人たちは、その地位を失うことになった。もはや、ウズベク語、カザフ語といった民族語を使用しなければその地位にとどまることができなくなったのである。

また、中央アジアの国々は宗教が国教であり、独立によって宗教色も強まってきたために、韓国人にとっては生活条件が悪くなった。とくに小さい子供たちを持つ若い人たちは未来がないと考えて、ロシア語を使う地域で生活したいと望むようになった。それで、中央アジアから沿海州に帰ってくるよ

義している。ロシア在住の朝鮮人の文化的未来に目を向けることはロシア文化の未来の発展にも通じるだろう。ロシアにおける朝鮮人の民族文化は



崩壊寸前の状況にある。ロシア国家統
計委員会や韓国学部のロシア人学者たち
も、在ロシア朝鮮人の民族文化の再
生は困難であると分析している。
こうした状況に、少しでも早く対策
を講じる必要がある。沿海州朝鮮人
総合再生計画の樹立が望まれている。
現在、沿海州の朝鮮人集団定着村
の建設資金はほとんどが企業や個人の
寄付によって助けられている。とくに
韓国の高麗合衆社、韓・露協会、田仏
教寺院などが真心から財政支援をして
くださっている。
現在、ロシアには百五十人を越える民
族が住んでいる。すべての民族問題を
その民族的特性に応じて解決するより
は、世界人類の共通の精神に立脚して解
決していくことに、人類発展の未来が
あるのではないかと考える。
今日のロシアは、まだまだ困難な状
況に置かれているが、人間の価値、自
山、文明を指図する道を歩んでいる。
神よ、私たちを見捨てないで見守っ
て下さるように。

キム・テルミル・アパナシエビツさん
この国際シンポジウムのためにロシア
から来日した。一九九三年、ロシア沿海
州ハサン地域フランスノ村生まれ。四
歳の時に強制移住を体験。中央アジアの
ウスベキスタンに送られる。
父・キム・アパナシエフ・アルセニエフ
は極東におけるソビエト政権崩壊後の
闘争。第十七回ボルネオ大会に民族
代表として参加。三六二年二月に逮捕され
三八年五月、日本のスパイ嫌疑をかけら
れ、他の約千人と共に送られる。
テルミルさんの名前は、父がドイツの
共産党活動家テルマンからとって付け
た。テルミルさんは強制移住後、タシケ
ント・マカロフ高校を経て、アストラハ
ン海洋大学を卒業。六四年から外航船の
船長職に就く。この間に知り合った、現
職の沿海州知事との親しい友人関係から
沿海州地域への朝鮮人再移住が行政レ
ベルの事業として道筋がつけられた。
今、沿海州で、民族の未来の道筋に光
が当たり始めていくように。しかし、李
光奎氏の報告にもあるように、当地で新
生活を始めた朝鮮人たちは、非常に過

酷な試練に直面している。行政から与
えられた農地での耕作は始められている
が、種を買い、肥料をやるという最低
の営農資金も不足している。住居施設は
あっても、生活に必要な条件が整って
いるとはいえない。
テルミルさんは、日本の方々にも多く
我々の存在と現状を知ってもらい、関心
をもってもらいたい。そして基礎的な生
活ができるようになるには、どうしても
外部からの支援が必要であると訴えた。
テルミルさんは最後にこう言った。
「日本に住む同胞の皆さん、また日本人
の皆さん、ぜひ、我々の村を見に来て
ください。そして私たちの未来を一緒に
考えてください」
募金等の支援に関心のある方は、在日
韓国奨学会までお問い合わせください。
〒53010016 大阪市北区中崎2
1412 大阪韓国人会館3階
TEL・06(6372)2311
TEL・06(6372)2311
FAX・06(6372)2321

【ニューヨーク1日=山中季広】数十年前の
日本はまるで過疎の島——米紙ニューヨーク・
タイムズは1日、「今世紀の前半には軍事大国
として、後半には経済大国として繁栄した日本
が、再び輝きを取り戻すことはない」とする大
型記事を第一面に掲載した。東京支局長を4年
半務めたニコラス・クリストフ記者が離任に当
たって書いた、いわば卒業論文である。

日本の輝き 戻らない

記事は「領土政策を捨て
て百四十五年もたつのに日
本人の外国人移民嫌いはや
まず、しかも少子化に拍車
がかかってきた」とため、労
働人口の減少が深刻な段階
に至っていると指摘。一方
で、経済に対する政府の補
助を例に挙げ、「削減しつ
つある産業に不公正の補助
を注ぐ情けない産業保護政
策が、日本経済の生産性を

外国人嫌いやまず

損ねている」と述べた。
数十年前の日本の姿を暗
示する場所として取り上げ
たのは、過疎に悩む長崎県
五島列島の赤島(種子市)。
若者が流出して三百人いた
島民がたつた五人になり、
病院や学校、商店が閉ざさ
れた様子を紹介して、政府
や自治体が多額の補助金を
投入しても労働人口が一向
に戻ってこない現状を冷や

甘い甘い資本主義

やかに描いた。
こうした政府の平等主義
の背景には、弱肉強食の美
力社会を嫌う国民性がある
と分析。日本流の資本主義
は「弱者にやさしいデイズ
ニーの電話の世界のよう。
すばらしくもあるが、同時
にどうしようもなく甘い」
と切り捨てた。
現在の経済危機を脱した
としても、日本が労働人口

数十年先過疎の島

の急減を食い止め、悪平等
主義的な保護政策を改めな
い限り、没落に歯止めはか
からないと結論づけた。
クリストフ記者は、一九
九五年一月の著任以来、独
自の視点で日本社会を報じ
てきた。「日本女性のレイ
プ願望」「中年男性の女子
高生好き」「愛を口にしな
い日本の夫婦」といった記
事もみられ、ニューヨーク
在住の日本人グループが昨
秋、目に余る記事を取り上
げて反論する本を出版し

中央アジアで二百一人の 「労働英雄」が誕生

旧ソ連で、朝鮮人に対する強制移
住が実施される前の一九三六年は、極
東地域における朝鮮人の生活が、政
治・社会・経済・文化面において大
きく向上した。当時、この地域には三
百八十の普通教育学校、朝鮮劇場、師
範大学、農事教育技術学校等が運営さ
れていた。朝鮮語版日刊紙七紙、雑
誌六誌が発行されていた。また、四十
カ所の「農村ソビエト」があるボシエ
ツトという朝鮮人区域もあった。
ソ連政府(全ソビエト連邦共産党中
央委員会)の連綿的決定が公布された
後、朝鮮人に対する弾圧が開始され
すべての朝鮮人を極東地域から中央
アジアに強制移住させる措置がとられ
た。それによって、それまで良く運営
組織されてきた朝鮮人組織がこの時
期に、相次いで崩壊した。
ソ連の専制主義体制の下、国家政策
的に行われた朝鮮人に対するテロリ
ズム的暴行は、朝鮮人の人権を
深刻な程度に侵害し、それから数十年
間にわたって悲劇的な運命を経験させ
ることになった。

このような暴虐的行爲によって、韓
朝鮮人の文化は衰退し、集団的大屠殺
によって無数の死傷者を出した。その
結果、五十万人にのぼる朝鮮人たちが
が、ロシア全境と中央アジア諸国に分
散して居住するようになり、現在に至
っているわけである。そして、韓朝鮮
人は民族文化的土台を喪失し、母国語
から遠ざかることになった。
韓朝鮮人は、移住先で、自分たちの
身の上が法的に流刑囚の立場に置かれ
たことを知るようになった。しかし、
ソ連政府による監視と迫害にもかかわらず、
韓朝鮮人はサボタージュや抵抗
をせずに黙々と働き、名誉を回復する
ためにあらゆる努力をした。その結果、
逆に政府の信頼を受けるようになり、
高い労働実績を上げたとして二百一人
が「労働英雄」の称号を授けられた。
ソ連の崩壊によって中央アジア諸国
が独立したが、その結果、共通言語は
ロシア語から各共和国の民族語になっ
た。このことは、韓朝鮮人にとって、
教育と雇用の面で差別待遇を生む原因
となった。つまり、韓朝鮮人は、「ロシ
ア語を使用する異邦人」という立場に
置かれ、被排斥的な生活を余儀なくさ
れることになった。
こうした状況が韓朝鮮人に民族迫害
から逃れる道を選ばせるようになった。
そして保護を受けることのできる普の
居住地へと、再び移住せざるを得なく
なったのである。

第三の移住という選択

一九九三年四月一日、ロシア連邦最
高会議は「ロシア居住朝鮮人の復権
に関する決定」を決議した。この議決
の目的は、「歴史的側面から正義を再具
現する」ことにある。しかし、韓朝鮮
人はこの決議に期待をかけたにもかか
らず、具体的にはロシア国民として
の一般市民的待遇を受けることはなか
った。当分の間は国家の支援も何ら期
待できない。
国家の支援を期待することが無駄で
あることを知った韓朝鮮人たちは、沿
海州へ戻るという選択をした。自分た
ちが、弾圧を加えられる以前に住んで
いた土地に戻るという道を選んだので
ある。しかし、この再移住は、韓朝鮮
人にとってさらなる苦痛が待ち受けて
いたのである。住宅問題と就業問題が
とくに深刻であった。沿海州に移住し
た韓朝鮮人の数は二万一千三百人程度と
推計されているが、肉体的、精神的苦
痛を強いられる過酷な日々を送ってい
る。
この再移住は、事実上、三度目の民
族的移住の強要ということになる。
沿海州五都市に
集団定着村を建設

現在、かつての軍事基地であったプ
ラトノフカ、バポフカ、ウズスウィチ
エンカ、ラスドルナエの四都市と、
ダルニエレチン地区のオレコウワ
という一都市が韓朝鮮人の集団移住先
として割り当てられている。四都市は
沿海州政府によって、一都市はダルニ
エレチン地区行政局によって割り当
てられた。
このように韓朝鮮人の集団移住先と
して計画されているところは他にも十
五都市ほどある。
沿海州地域内で建設されている韓朝鮮
人のための「集団定着村」は、韓朝鮮
人再移住民を一定域内で制度的に収容
するということに行政側の目的があ
るわけだが、我われ、韓朝鮮人にとっ

集団村の構想

ては、民族文化の再生という大きな可
能性を含んでいる。
社会的に流浪民の立場に陥落してい
た韓朝鮮人が、民族文化の崩壊の危機
を食い止めるには、集団定着村の建設
がまず必要であることはいうまでもな
い。集団村を土台にしてこそ初めて、
民族文化再生の可能性が道筋として見
えてくる。
——農業を中心に食糧工業を育てていく
民族の集団定着村が繁栄していくた
めには、経済的な自立を成し遂げなく
てはならず、そのために経済活動の自
由が保証されなくてはならない。そし
てさまざまな産業が村と調和的に活動
できるようになることを目指していかな
ければならない。
集団定着村の経済活動の主要な方向
は、農業生産に初めは集中されるであ
ろう。
「再生委員会」が描く村の構想は、沿
海州の農業管理所、及び関連部署との
共同で農産物生産計画、生産性向上計
画を立て、品種の決定、販路の開拓に
取り組んでいく。また、村内には食品
加工業を育成していく。さらには、園
芸、畜産、動物毛皮加工、木材加工な
どの産業を興していくなどである。
沿海州の韓朝鮮人の総合的な
再生計画の樹立を望む
ロシア文化とは、ヨーロッパとアジ
アの接合点で発生したユーロアジア的
な文化であると、多くのロシア人が定

『中国朝鮮族研究会』

研究活動報告

日本在住の中国朝鮮族を中心とする『中国朝鮮族研究会』は、今年1月に発足して以来、これまで都合三回例会を開いた。

第一回は、3月14日(日)午後2時、「日中韓語学研究所」で幕を開き、白榮勛氏(明治大学博士後期)が『間島における領事裁判権』というテーマの発表を行なった。第二回は5月16日(日)午後2時から、李森氏(中央大学博士後期)が『中国の財政改革と制度』、第三回は7月18日(日)午後2時より、李鋼哲氏(立教大学博士後期)が『歴史的な転換期を迎えた延辺経済—図門江地域開発は何を変えるのか—』という題目で、それぞれ研究報告を行なった。

三回にわたる例会において、報告者はあらかじめ資料の収集と分析、レジュメの作成など用意万端で臨み、会員たちは報告者の報告内容に対し、積極的に質疑と討論を行なった。また、意見交換、情報交流も行われた。

第四回の例会は、9月23日(木・祝)午後2時からの開催予定である。今回は、金光林氏(法政大学講師・東京大学学術博士)が『日鮮同祖論—その実態と歴史的展開—』というテーマで発表する。金光林氏は長年にわたって本課題の研究に取り組んでいるが、同テーマは博士学位授与論文である。

『中国朝鮮族研究会』は、純粋な学術研究団体として、中国朝鮮族の政治、経済、文化、言語、歴史など各分野における学術研究活動を行うことを旨としており、「中国朝鮮族」研究に関心をもつ者により成り立つ。これからも当研究会は、以上のような会員個人の研究成果を発表するなど学術交流を深める一方、中国朝鮮族に関する諸分野の研究成果、文献資料の収集、リスト作成および翻訳・出版活動などにも、取り組んでいく予定である。

そのため、ステップとして、幅広く会員を募集し、活発な研究活動を進めて行く所存であるので、本研究会に興味を持たれる方々のご参加ご支援を願う次第である。

『中国朝鮮族研究会』

世話人： 李 東哲、白 榮勛

連絡先

〒105-0003

東京都港区西新橋 2-13-16 4階-A

TEL 03-3592-9005

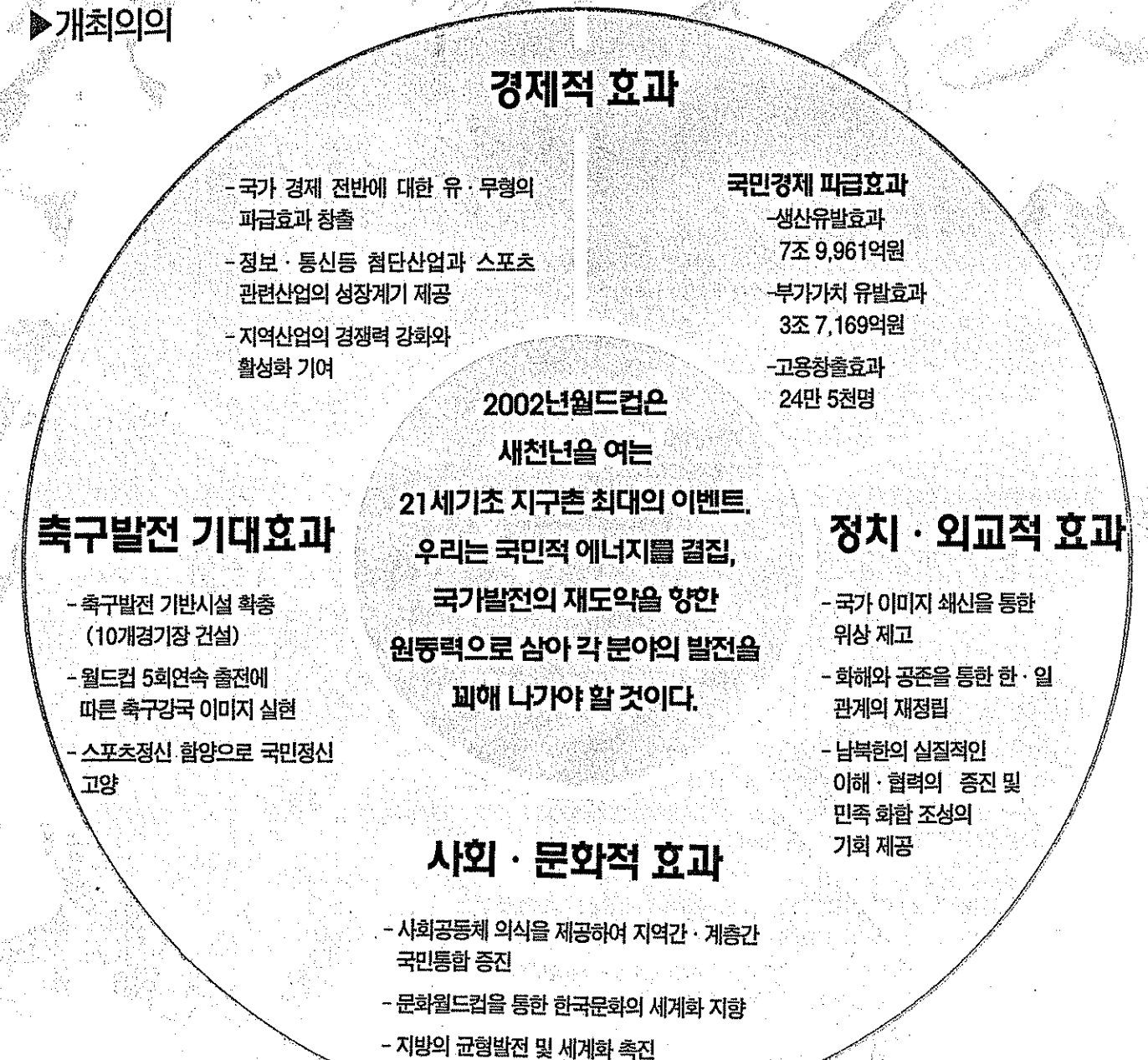
FAX 03-3592-9064

2002 월드컵 최고의 가치 지닌 새 천년의 '기획상품'

▶대회개요

대회기간	2002년 6월 ~ 7월 ※지역예선(2000.3~2001.11) -203개국, 770경기 개최	대륙별 본선 진출팀	아 시 아 : 2팀 아프리카 : 5팀 유 럽 : 14팀 북 중 미 : 3팀 남 미 : 4.5팀 오세아니아 : 0.5팀 전대회 우승국 및 개최국 : 3팀
대회장소	한국·일본 각 10개도시		
참가규모	13,000명(32개팀, FIFA대표단, 보도진등)		
관람객	연인원 350만명 예상		
TV 시청	연인원 430억명 추정		

▶개최의의



월드컵-그 영광과 환희의 드라마

1930년 1회대회 개막, 72년만에 아시아 무대로...

월드컵 소사

2002년 우리는 월드컵, 그 영광과 환희의 드라마를 직접 만날 수 있는 기회를 갖는다.

"세계 최고의 스포츠, 최고의 스포츠대회를 치르기 위해서는 최정예 선수들만이 겨루는 세계 축구대회가 필요하다"는 프랑스 축구협회 초대회장 줄리메의 주장에 국제축구연맹(FIFA)이 긍정적인 반응을 보였고, FIFA는 이 세계축구대회의 명칭을 월드컵대회로 결정하였으며, 1920년 5월 26일 독자적인 축구대회 개최를 발표함으로써 마침내 월드컵이 탄생하게 되었다.

1930년 개최된 제1회대회는 유럽의 전후 복구사업과 세계의 대공황 사이의 기간에 개최되어 유럽 4개국을 포함 모두 13개국이 출전, 7월 13일부터 30일까지 나라이름이 '새가 돌아오는 강'이라는 뜻인 '우루과이'의 3개 경기장에서 개최되었다.

올림픽의 중간 연도를 택해 4년에 한 번씩 개최되는 월드컵은 제3회 프랑스월드컵대회 이후 12년동안 세계대전으로 중단되었다가 전쟁의 종식과 함께 1950년 브라질의 제4회 대회부터 다시 개최되어 1998년 제16회 프랑스대회를 거쳐 2002년 한·일 월드컵에 이르고 있다.



'98프랑스 월드컵대회 벨기에전에서 맹활약하고 있는 홍명보 선수



54년 스위스월드컵 국동에선 한일전. 한국이 5대1로 완승

역대대회 현황

개최연도	개최국	참가국수	우승국
1930	우루과이	13	우루과이
1934	이탈리아	16	이탈리아
1938	프랑스	15	이탈리아
1950	브라질	13	우루과이
1954	스위스	16	서독
1958	스웨덴	16	브라질
1962	칠레	16	브라질
1966	영국	16	잉글랜드
1970	멕시코	16	브라질
1974	서독	16	서독
1978	아르헨티나	16	아르헨티나
1982	스페인	24	이탈리아
1986	멕시코	24	아르헨티나
1990	이탈리아	24	서독
1994	미국	24	브라질
1998	프랑스	32	프랑스
2002	한국·일본	32	-

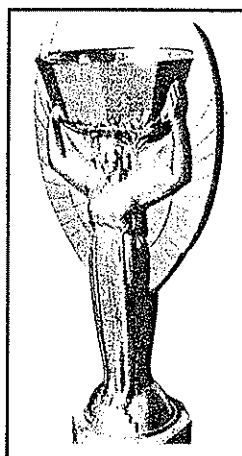
한국 월드컵 출전사

연도	개최국	전적
1954	스위스	2전2패 헝가리(0:9), 터키(0:7)
1986	멕시코	1무2패 아르헨티나(1:3), 불가리아(1:1), 이탈리아(2:3)
1990	이탈리아	3패 벨기에(0:2), 스페인(1:3), 우루과이(0:1)
1994	미국	2무1패 스페인(2:2), 볼리비아(0:0), 독일(2:3)
1998	프랑스	1무2패 멕시코(1:3), 네덜란드(0:5), 벨기에(1:1)

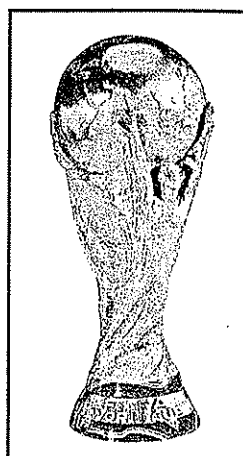
월드컵 트로피

월드컵대회의 첫 번째 트로피는 1930년 제1회 대회의 우승팀에게 시상하기 위해 승리의 여신이 팔을 뻗어 팔각형 컵을 받들고 있는 순금 조각품으로 만들어졌다. 월드컵 축구의 창시자인 프랑스 노신사 줄리메 회장을 기려 줄리메컵으로 불려졌으며 1970년 대회에서 브라질이 3회 우승을 함으로써 영원이 차지하게 되었다.

두 번째의 트로피는 1974년대회부터 시상한 것으로 바닥에서 나선형으로 솟아오르는 선들이 지구를 떠받치고 있는데, 이는 2명의 선수가 감동적인 우승의 순간을 역동적으로 표현하고 있는 것이다. 이 트로피는 금 18K로 높이 36cm, 무게 4,970g이며, 영구적으로 FIFA의 소유물이고 우승팀에게는 도금한 복제품을 수여한다.



줄리메컵 ▲

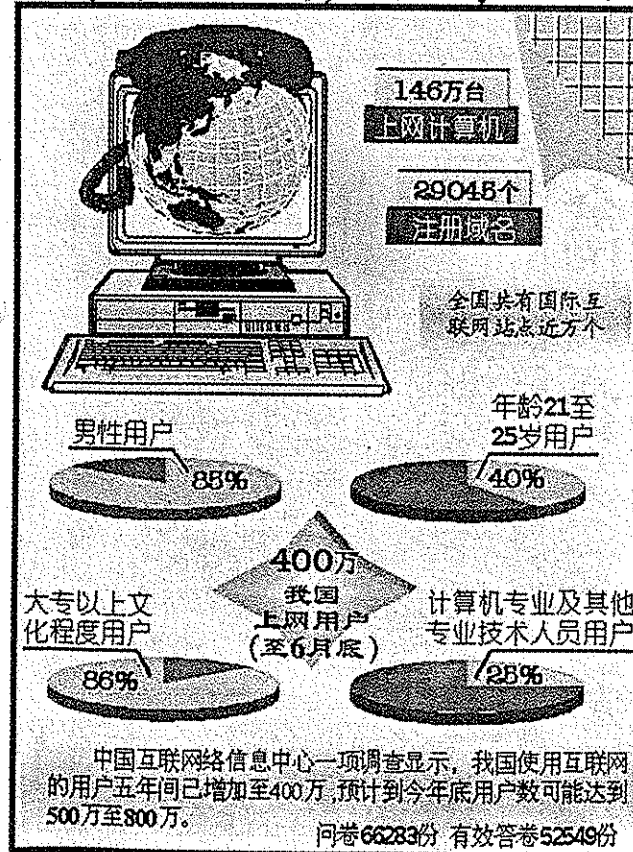


FIFA컵 ▲

1998~1999年度天池俱樂部活動概要

日期	例会	内容	講演者
1998. 10. 25	第44回	中国朝鮮族日本進出経験交流会	
1998. 11. 29	第45回	在日朝鮮人の歴史及び現状	康成銀
1998. 12. 27	第46回	在日朝鮮族1998年度忘年会	
		延辺大学チームVS天池俱樂部チームサッカー試合	
1999. 1. 31	第47回	"天池人文"について	
1999. 2. 28	第48回	計算機基礎知識講座	宋虎岩
1999. 3. 28	第49回	西船橋行田公園花見大会	
1999. 4. 25	第50回	計算機基礎知識講座2	金炳哲
1999. 5. 30	第51回	日本留生活経験交流会	
1999. 6. 27	第52回	在日朝鮮族科学技術交流大会	
1999. 7. 25	第53回	北京大学金景一教授講演会	
1999. 8. 29	第54回	"残暑を吹っ飛ばせ"大原海水浴	
1999. 9. 26	第55回	天池俱樂部第三期理事会選挙	

我国上网用户达到400万



두번째아이 낳으면 학잡비 면제

본사소식(김기선 보도): 육룡강성 화천현 성화조선족 향정부에서는 올해부터 무릇 향내의 조선족부부가 국가계획출산정책대로 두번째 아이를 낳으면 그 아이의 유치원부터 초중에 이르기까지의 학잡비를 면제해주기로 하였다.

성화조선족향은 1948년에 설립, 1400호에 5400명 인구, 2만 8000무의 순논을 경작하는 민족향이다. 전향 6개 촌에는 완전소학교(1학년-6학년)가 촌마다 있었고 학생이 900여명 되었다.

개혁개방이래 특히 최근 몇년간 해외로무송출, 국내도시진출 등 리향민이 600여명, 그에 따라 결혼하는이가 적어졌고 또 설사 결혼했다 하더라도 모두 하나씩만 키우다보니 인구장성률이 마이

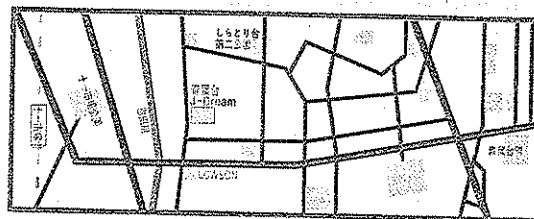
나스를 기록하였다. 10여년래의 통계에 의하면 해마다 사망자가 50여명되는 반면 출생인구는 20여명정도밖에 되지 않아 조선족농촌의 지속적발전과 특히는 농촌소학교 교육에 직접적인 큰 영향을 주었다. 하여 이 향에서는 1994년도에 전향 각 촌 6개 소학교를 교동이 편리한 중성, 성화 등 3개 소학교에 집중, 금년 새학기부터는 향중심소학교 하나에 집중시킬 타산이다. 그래도 학생근원은 여전히 부족되는 정황.

이에 비추어 성화향에서는 조선족농촌의 유지와 발전장래로부터 출발, 조선족부부가 두번째아이를 낳는것을 고무하여 유치원부터 초중까지 학잡비를 면제하기로 하였다.

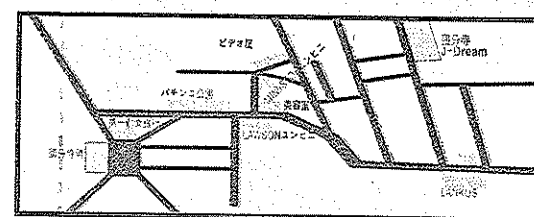
留学生寮を紹介します

联系电话: 03-3592-9005 传真: 03-3592-9064

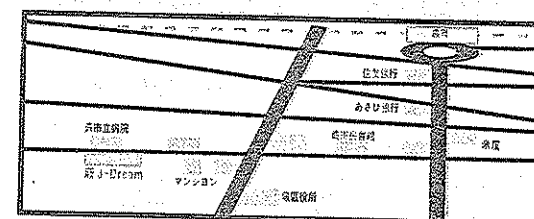
青葉台



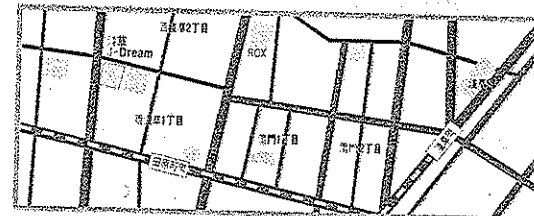
國分寺



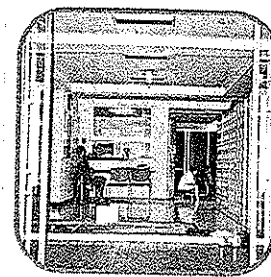
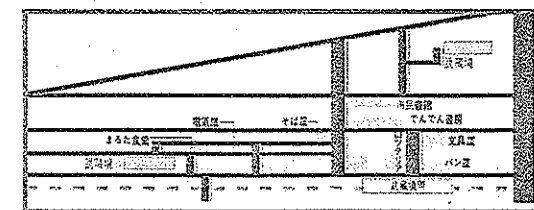
蔵



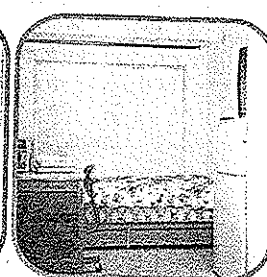
法草



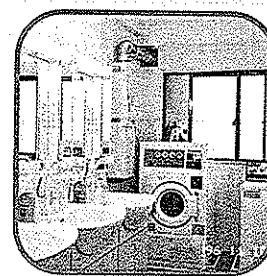
武蔵境



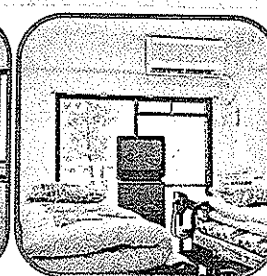
▲ 関理室



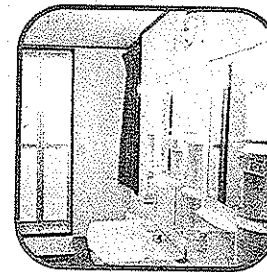
▲ 1人室



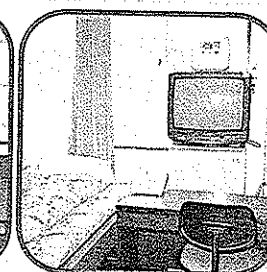
▲ 세면장·세탁실



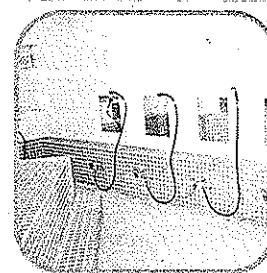
▲ 2인실



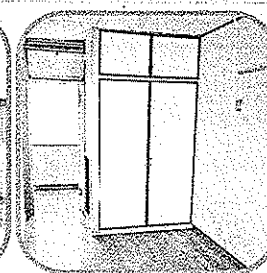
▲ 세면장



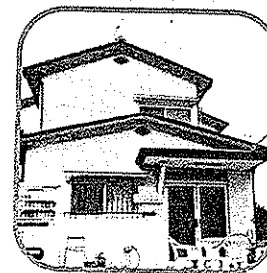
▲ 1인실



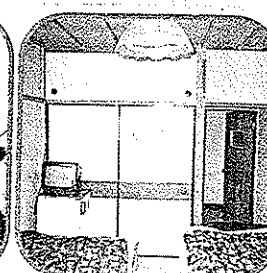
▲ 사위실



▲ 2인실



▲ 건물외관



▲ 2인실

天池俱樂部 1999年度定期総会案内

中国朝鮮族が来日して以来、およそ10年の歳月が流れました。その先輩たちはいよいよ日本で独自の地位を築き上げつつあり、在日中国朝鮮族も日本で存在感を増している一方です。朝鮮族の有力な団体である天池俱樂部も設立以来ただ一度も活動を中断することなしに5年目を迎えるようになりました。これは、ひとえに在日朝鮮族の皆様の多大なご支持、ご声援によるものであります。

これから我々が自力で成功への道を開くためには、まず、一つのしっかりした生活共同体を築き上げないと行けないと思います。周知のように在日の多くの外国人グループは21世紀を目前に協力・団結して、日本でビジネスを中心に強大な勢力に発展しつつあります。このような趨勢に遅れないためには我らの朝鮮族も今までのやり方を変え、現代文明社会に適合した組織を造らなければなりません。そのために天池俱樂部はどうすればよいのか、天池俱樂部の今後の進路を年に一度の定期総会で皆で一緒に考えてみましょう。

今回の定期総会では天池俱樂部の過去1年間の活動報告、今後の進路に対する討論及び次期理事会の選挙を行います。その後、カラオケ親睦会を開催したいと思います。当日は時間的に余裕がある方は午後4時から水道橋の大連飯店(何時も夕食をとったところ)で集合し、旧交を温め、一緒に夕食を取って6:00時に会場へ着きましょう。

記

1. 名称：天池俱樂部1999年年次総会
2. 内容：1年間の活動報告、今後の進路に対する討論、新理事会の選挙
3. 場所：文京区役所 シビックセンタービル 3F B室
4. 時間：9月26日(日曜日) 午後6:00～9:30

*カラオケ大会は会議終了後付近のカラオケ屋へ行く予定です。選挙が早く終われば早く行きましょう。

天池人文

천지인문

CHONJI CULTUER

日本在住の中国朝鮮族が作る月刊文化・生活総合誌

일본에 사는 중국조선족들이 만드는 唯一한 잡지

在日中国朝鮮族办的独一无二的杂志

欢迎订阅天池人文

천지인문을 구독하시기 바랍니다

購読を歓迎します

1部300円、年間購読料3、000円。申込は「天池人文」編集部まで電話またはFAXで。

毎月20日発行

編集部：〒105-0003 東京都港区西新橋2-13-16 多田

ビル4F-A 日・中・韓語学研究所内

TEL / 03-3592-9005

f a x / 03-3592-9064

発行：天池倶楽部 CHONJI CLUB

編集委員：金炳哲、金万寿、金光林、陳万哲、李東哲（吉林）